

楽しみながら環境を考える

未来へつながる賢い選択をテーマにした「やさぎ環境フェア」を9月10日、和鋼博物館で開催しました。会場では、自然素材を使った遊びや工作体験コーナーをはじめ、環境関連団体の展示・紹介ブースなど様々な企画が用意され、多くの人で賑わっていました。

家族5人でオリジナルソーラーカー作りに挑戦した高井翼さん（小学2年生）は「ラジコンが好きなのでこの教室に申し込みました。意外とかんたんに作ることができました」と話し、早速、太陽の下で車を走らせていました。



▲廃ペットボトルを使ってソーラーカーを組み立てていきます。

ヘルス・マネジメント 認定事業所に平井建設が認定

従業員の健康管理を熱心に取り組んでいる「ヘルス・マネジメント」認定事業所に平井建設株式会社（平井徹社長・従業員82人）が市内で初めて認定されました。働く人の健康づくりや生産性の向上などを目的に島根県と協会けんぽ島根支部が創設している制度です。

同社では全従業員の健診受診のほか、メンタルヘルスの社内規定の整備、年一回の面談実施など、様々な取り組みを行っています。また、健診結果はネット掲示板で公表し、社内で情報の共有を図ることで従業員の健康への意識づくりを進めています。

健康管理の担当である紅花博志総務課係長は「普段からの取り組みによって認定を受けることができました。会社のいちばんの資源は“ひと”です。引き続き働く環境をよくしていきたいです」と話しています。



まちの話題や出来事をご紹介します



9月24日、幸盛祭での一コマ。山頂では広瀬小の児童が剣舞を披露。天空に延びる剣先、真剣な表情、とても素敵でした。

今月の一枚



▼同社では毎朝、全従業員が参加するラジオ体操に取り組んでいます。





白熱の碁大会

幼児から中学生までを対象にした安来少年少女碁大会が9月10日、安来中央交流センターで開催されました。浜田市や湯梨浜町など市内外から参加した84人が、名人戦～初心者クラスまで6部門に分かれて熱戦を繰り広げました。今回はプロ棋士の桑本晋平七段を招き、大盤解説や指導対局なども行われ市内の碁熱の高さが感じられました。

参加した島田小2年の千石秀くんは、「(碁は)負けると悔しいけど、石がうまく取れたときが楽しい」と話していました。

悩みや不眠は早めに相談を

9月10日の世界自殺予防デーに心の健康づくりや自死予防について理解を深めてもらおうと、いきいきキャンペーンを開催しました。10日には安来市自死対策会議委員などが市内3カ所で、相談機関の連絡先を記載したチラシを配布し、島根県の自殺死亡率が高いことや、不眠が続く場合は早めに相談することなどを呼びかけました。

同会の杉原徳郎会長は「自死予防にはいきいきと生活することが大事。趣味などが自死予防につながる」と話していました。

▶9月10・11日に行われたいきいきキャンペーンの様子。



2000灯に平和の願いを込めて

平和について考える機会になってほしいとの思いから「第3回安来市平和のつどい」を9月30日、加納美術館周辺で開催しました。開会セレモニーでは、布部・山佐小学校の児童による「歌」と「呼びかけ」や、地元の人による「戦争体験の発表」が行われました。

その後は、市内の個人や団体が平和への願いを込めて描いたあんどん2000灯にいっせいに点火。2000人分の思いが込められた文字や絵が会場に浮かび上がりました。訪れた人たちは星空の下に広がるやさしい灯りを見て回りました。



▼開会式後、さっそく展示を見て回ります。



総合文化ホールで初めての展示

市民から応募された洋画・デザイン・写真の美術展が9月23日、市総合文化ホール・アルテピアで開幕しました。3部門には高校生を含む延べ113点が出展。第11回となる今回は、9月に新しく開館した同ホールに会場を移しての初めての開催となりました。

市美術展実行委員会会長の藤井佐市さんは「展示には照明が影響するのですが、新ホールの展示室は作品の見栄えがよいです。出品者も喜んでます。また、コンサートなどの他のイベントとの相乗効果を期待しています」と話していました。



和牛オリンピック惜しくも6席

宮城県仙台市で開催された、和牛のオリンピックと呼ばれる第11回全国和牛能力共進会（9月7～11日）系統雌牛群の部の4区に出場した能義和牛育種組合は、優等賞6席となりました。目標としていた5席以内を惜しくも逃す結果となりました。

出品農家で同組合副組合長の清山高康さんは「皆さんよくやってくれた。大会の講評、報告書、結果検証作業をもとに次につなげたい」と話していました。

地域主体の健康づくりを表彰

地域で健康づくり活動や生きがい活動を積極的にいき、健康増進・介護予防に貢献した団体を表彰する健康づくりグループ表彰（主催：松江圏域健康長寿しまね）の会長賞に市内5団体が選ばれました。

9月27日に表彰状を受け取った十神地区健康推進会議・野津弘雄会長は、「大所帯の地区で悩みながら活動している。表彰を励みにして今後もがんばりたい」と喜びを語りました。



▲賞状を受け取る野津会長（左）

受賞団体

- 宇波地区健康を守る会
- 下山佐地区健康ビクス教室
- 十神地区健康推進会議
- 新十神町健康長寿体操
- セラの会（荒島）



新しい照明の下でプレーボール

38回目を数える広瀬球場ナイターリーグが2年ぶりに広瀬中央公園野球場で開催されました。9月から10月にかけての平日夜に試合が組まれたリーグには、7チームが参加。10月4日の準決勝戦は午後7時にプレーボール。涼しくなった秋夜の一戦に、選手たちは真剣な表情で試合を進めていました。

広瀬中央公園野球場のナイター照明設備は今年度、改修を実施。6棟の鉄塔にある180灯のうち約半数の投光器やランプを取り替え、配電盤も更新しました。この改修は「スポーツ振興くじ助成金」を受けて行いました。



地域へ轟く比田太鼓

湯田山荘で10月1日に開催された比田温泉祭りのステージ最後を飾ったのが地元で活動する比田太鼓です。比田太鼓は現在大人9人、小・中学生3人が在籍。平成19年3月に結成されて以来、お祭りや地域のイベントなどに積極的に参加し、地域の活性化と青少年の健全育成に寄与しています。

今年は宝くじのコミュニティ助成金※を使い、太鼓7張を新調しました。新しい太鼓を叩いた古澤有我くん（広瀬中3年）は「革が張っていい音がでる。地域を盛り上げるため使いたい」と話していました。



※宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に実施しています。